

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	有限会社たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	愛知県瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	平成28年 2月11日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JivgyosyoCd=2392300162-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こ「ほっと」は瀬戸市中心部にあり、名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅下車徒歩10分及び名鉄バス記念橋徒歩5分の所にあります。
 近くには深川神社や銀座通り商店街があり、飲食店や雑貨などが並んでいます。散歩にはとても恵まれています。現在6名の利用者さんと「普通の家で生活し楽しい人生を送る」の理念に沿うように少しずつではありますが、一人ひとりの要望が実現できるよう支援をしています。また日々笑顔が絶えないような努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人2軒目のグループホームとして昨年4月に新装オープンした。管理者と職員数名は法人内のホームからの異動である。まだ利用者は6名と少なく、その分行き届いた支援が可能となっている。
 利用者本位の支援を実践しており、自由度の高い開放的なホームである。自宅から盆栽の一部を持って来た男性利用者は、鍵のかかかっていない玄関を自由に出入りして盆栽の手入れや水遣りをしている。この利用者はプランターで季節の野菜を栽培しており、時ならぬ冬の暖かさに、春に収穫予定であったさやえんどうが実を付けた。もちろん、旬のものとして食卓に上がったのは言うまでもない。春になったら、スカイツリーに行く計画(介護計画に盛り込み済み)もある。
 編物を望む利用者のために、職員が自宅から道具と毛糸を持って来てプレゼントした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解しており、日常生活の基本となるように努めている。	法人の2つ目のグループホームとしてオープンし、「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」との法人理念を掲げている。ホール正面には、利用者が作った「ようこそ ほっと」の大きな飾りが掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を日課としており、積極的に挨拶を交わしている。回覧板は利用者さんと届けており近所の方との触れ合いを大切にしている。	開設1年目。まだホームの知名度は低いが、回覧板が回ってきたり、小学校の運動会を見に行ったりと、徐々に地域との交流が増えてきた。地域出身の利用者が多く、散歩の途中で知り合いから声がかかる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	未だ地域の方々には”ほっと”がどのような所なのか知られていませんので、少しずつ理解してもらえるように努力をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではメンバーからの意見や要望に対して、1つ1つ積み上げて行くようにしています。この機会を通してサービスの向上に活かして行けるようにしている。	運営推進会議を毎奇数月に開催している。家族代表、市と地域包括支援センターの職員、民生委員、地域(町内会、自治会、婦人会)の代表、訪看担当者、他ホームの管理者等々、メンバーは多彩である。	地域の代表が多く参加していることから、議題として「地域との交流・連携」を挙げ、地域との取り組みが円滑に進展することを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員とはメールでやり取りをしています。困ってることや些細なことでも気軽に相談しやすい雰囲気です。	運営推進会議には、毎回市の担当課から職員の出席がある。市役所がホームに近いこともあり、質問や相談があれば管理者が気軽に市役所に足を運んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず、全職員がマニュアルを熟読し把握している。	玄関は施錠されておらず、ホームの裏庭に盆栽を持ち込んでいる男性利用者は、手入れや水遣りのために自由に玄関を出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員がマニュアルを熟知し理解し、職員間で相談しやすい環境を作れるように心かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は管理者のみが参加しているので機会があれば職員も参加したい。一人の利用者さんが成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約に関する内容を十分説明し同意を得ている。今後契約に関して変更等があった場合は文書にて説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見や要望が気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それを職員に伝え話し合い反映させている。	家族アンケートの結果は良好で、協力的な家族が多い。利用者の家族(娘さん)は、時間を作ってホームにボランティアとして訪問している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを取り話しやすい関係性を築くように努めている。代表者には意見要望のみ伝えている。	若い職員から年配の職員に到るまで、元気がいい。利用者6名中4名がインフルエンザに罹患したが、職員への感染はない。管理者の前職(法人の他ホームの管理者)からの職員もおり、相互に気心は知れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすくなるような環境を整えられるようには努めているが、今は多忙なため来所が困難であります。今後に期待したい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が管理者に、管理者および職員に対し研修等の受講の機会を確保している。報告書は全員が周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護連絡協議会において管理者が地域密着部会の部長を務めているが、今後は職員同士に於いても交流が出来るように努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族面談をして、意向や希望を聞いた上で、常に利用者と同じ目線で対応し本人と信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通じて、困っていることや不安に感じていることを十分受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを聞き入れ、状況等を確認し改善に向けた支援をすべきかを見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんは人生の大先輩でありますので、教えてもらう場面も多い。支援するという意識は持ちお互いが協働しながら穏やかに毎日を送れるような工夫や言葉かけに配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来所時介護記録を見て頂いているだけでなく、日々の暮らしの出来事や気づきを報告している。また些細なことでも話して貰えるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の兄弟や親せきの方が気軽に来所されています。毎週一緒に喫茶店に行かれる利用者さんが見えます。馴染の場所に行けるような支援をしています。	ホームから自宅が近いとの理由で、他ホームから移動してきた利用者がある。散歩に出れば、旧知の友人たちから声がかかる。利用者の人生を紐解く「メモリーブック」の作成が進んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事前と集団レクリエーションには全員が集まりみんなで楽しんでいます。利用者さん同士が支え合ったり会話をされてる場面は見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ該当者が見えません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で常に利用者さんからの思いを把握できるように声をかけている。思いが上手く表現できない方には表情や動作から洞察している。家族からも情報を得ている。	懐かしい「尋常小学校へ行ってみたい」との意向を持つ利用者のために、豊田市の猿投地区にある小学校を訪ねて教頭先生に会ってきた。校庭の隅に立つ「二宮金次郎」とも再会できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と共に昔話をしたり、家族の方からの協力を得て利用者本意になるように努めている。自宅にいた頃と同じように趣味が続けられる環境を整えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の状態を把握し、出来ないことよりも出来ることに注目し有する能力を発揮して頂けるような声掛けをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者からは日々の関わりの中で思いを聞き、家族の方からも要望を聞いている。毎月の会議でモニタリングを行い介護計画に反映させている。	利用者の思いや意向を叶える介護計画作りに努めている。若い頃から日本全国を旅行して回った男性利用者は、「スカイツリーに行く」ことを希望しており、介護計画に取り上げて支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が毎日個別の介護記録を確認しており情報共有を徹底している。それに基づき介護計画書の見直し評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に応じて、通院介助必要な支援を柔軟にその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して普通の生活が送れるように、町内会や自治会に加入しています。地域の方との交流は回覧板や散歩でこちらから積極的に挨拶を交わしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医には家族の方が通院している。家族の方からの希望に応じて通院介助への支援も行っている。	馴染みの医療機関を使う1名を除き、他の利用者はホーム協力医をかかりつけ医としている。看護師資格を持つ職員は退職したが、24時間対応の訪問看護ステーションと連携しており、万全の体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、24時間いつでも連絡が取れています。週1回の訪問以外に於いても、医療面に関する相談や助言もしてくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と訪問看護ステーションとの連携によりスムーズに入院が出来る体制を整えている。入院時には職員が付き添い医療機関との情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けての説明と同意を得ている。今後は本人の意向を尊重し家族・主治医・看護師・職員とで最期が迎えられるようにしていきたい。	管理者の前任地での看取りに感謝の意を持つ家族が、母親(前任地で看取り)のご主人をホームの利用者として契約してくれた。管理者と職員は、家族の意向に沿った看取りを実践する力量と自信を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し事務所に掲げている。AED救命講習は受講しているが、今後は地域医療部の研修を利用し勉強をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでは月1回の消防訓練を実施している。今後は地域住民や婦人防火クラブの方の参加を促していく予定です。	年間2回、大規模な防災訓練を実施しているが、それとは別に、利用者の習熟度を高めるために、毎月避難訓練を実施している。	夜間に災害が発生した場合、ホームの職員だけでは対応が難しい。運営推進会議に諮り、地域住民を巻き込んだ防災訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりその人らしい尊厳ある姿を大切にさりげないケアを心がけたり、方言を使ったりすることもある。	利用者と職員の馴染みの関係ができてきたが、常に利用者の尊厳を意識した支援を心掛けている。居室に入る時には、利用者に声をかけて3回のノックを欠かさない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりその人の考えや思いを把握し、一人ひとりの状態に応じた言葉かけをし、本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮し、出来るだけ一人ひとりのペースを大切に、会話の中から気持ちをくみ取っている。やりたい事や行きたい所への外出も支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容の出来る方はして頂いている。支援が必要な方には一緒に行っていますが、「どちらにしましょうか？」などの声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの好まれる方は自らエプロンをかけられ参加したり、また「〇〇が食べたい」と言われた時は要望を取り入れている。食事は職員も共にテーブルを囲んで楽しい雰囲気作りを大切にしている。	咀嚼に難があったり、嚥下の機能が低下していたりする利用者3名のためにソフト食が提供されている。当日はインフルエンザに罹患して寝込んでいる利用者もあり、職員は食事の介助に追われていた。	冬にも拘わらず暖かい日が多かったせいか、利用者が育てているさやえんどうが実を付け、食卓に上がった。利用者のやりがいの“野菜”が、さらに食卓に上がることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の栄養バランスには配慮し、食事形態は個々に応じている。水分はこまめに(お茶以外も)摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを促している。スポンジや舌苔ブラシを使用して見える方がおられます。義歯洗浄は職員が行っている。嚥下障害による肺炎の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は基本トイレであるが、自尊心に配慮し利用者の様子から察知しトイレ誘導を行っているが、身体機能に応じたり、言葉かけをしながら支援している。	6名の利用者のうち、2名は排泄自立している。残る4名は職員の声掛けや誘導によって、トイレでの排泄を基本として支援を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、適切に身体を動かしたり、水分補給や食事の内容に気を配っている。必要に応じて服薬の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりゆったりと午後から入ってもらっています。職員と会話が弾んでいる。着替えなども本人と一緒に選ぶように心かけている。	3日に1度、週2回の入浴が基本である。入浴を嫌う利用者はおらず、皆お風呂を楽しみにしている。浴槽に入れない利用者は、シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを崩さないように努めている。休まれる時は部屋の空調や照明に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬は職員は把握しており、薬の処方や用量が変更された時は記録や申し送りノートに書いている。服薬時には手渡し飲み込むのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった役割や楽しみが持てるように支援をしています。趣味であった園芸を今も続けられ毎日の日課になっていて、とても生き活きとされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の散歩をはじめ本人の希望通りに自宅に帰ったり、母校や生まれた所に行きたいとの要望も実現できた。雨の日でも傘をさして喫茶店にも出かけることが出来ている。	利用者と職員が連れ立って、ホーム周辺の公園や商店街に散歩に出かけている。地元出身の利用者が多く、知人から挨拶されたり声をかけられたりする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は事務所で預かっていますが、家族了承の元所持金が持てる方は外出時や喫茶店の支払いは自分で払って見える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って見える方は本人がかけた時に使用している。本人からの要望がある時は家族に電話をかけ話ができる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家の雰囲気のため、飾りは最小限にしていますが、さりげなく利用者の作品を貼ってあります。玄関正面のウエルカムボードは全て利用者一人で完成させたものです。	もうすぐひな祭り。ホールの一角に7段飾りのひな人形が飾ってある。玄関の下駄箱の上には、利用者の作った紙コップ製のひな人形が置かれている。大きな“ようこそ ほっと”の歓迎ボードも利用者の手作りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングには大きなソファがあり、好きな場所に座っているが最近では自分の場所が定着しつつある。毎日窓際で椅子に座り外を眺め家族が見えると笑顔があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の思い出の写真やホームで撮った家族と一緒にの写真が飾ってあります。畳を敷き転倒防止と自分の部屋が分かるような空間作りの部屋もあります。	職員が持って来た観賞用の“折り鶴蘭”を株分けし、居室で育てている利用者がいる。その横に、若い頃の奥様の写真が遺影として飾られている。ベッドからの転落に備えて、畳の敷いてある居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたらわかるのか」を見極め話し合いをしていく。屋外西側の場所に関しては安全で尚且つ利用者全員で楽しめるよう整備をしていきたい。		